すなお

令和４年７月号

おやのことば

雨降りもあれば、天気もある。雨降りの日は、十分の働きは出来難くい。身上の障りの時は悠っくり気を持ちて、楽しみの道も悠っくりと聞き取りて楽しもう。成ろまい日々の事情、働くばかりが道であろうまい。

明治三十年三月十二日

会　長

今月の一日に退院をして教会に帰らせていただきました。約二ヶ月の入院期間中、皆様にはご心配・ご迷惑をかけました。中にはこのすなおの原稿を読んで連絡をして下さった方もあり、嬉しいことでした。

今回のケガを通して勉強したり心に味わったことを少しずつ原稿として伝えていきたいと思います。

入院した当初、腰が痛くてほとんど動けません。こんな時にウクライナのような戦争が起きたら、私は自分でこの部屋を出る事さえ叶いません。報道では病院も砲撃を受けたと聞きました。そうなると正に死を待つのみです。こうして治療を受ける事が出来るのは平和であるという前提があってのことと、深く感じました。

また、隣に入院していた人が顔、頭、肩とあちこちのケガをして治療を受けている話を聞きました。側溝に落ち込んでケガをしたそうです。そのあと自分のケガとどっちが良いのか？と思ったがどっちもどっちで、まして選べる訳もなく今回のケガが私にとって最善の状態だったのだと思い、大難を小難にしていただいたと思いました。

（次ページへ）

すなお（立教１８５年７月号）

通　巻　№744
発行所　天理教瀬戸路分教会
794-0007　今治市近見町4-5-10
☎　0898-23-5004
FAX　0898-23-5123
発 行 日　2022.7.16
責任者　二 宮 英 治

毎日、看護師さんにベッド上でありとあらゆる事をお世話になっています。検温、血圧測定、食事の配膳、歯ブラシの洗浄、アイスノンの準備、身体を拭き洗髪、そして大便、小便の下の世話。もちろん、仕事だから当然といえば当然かもしれない。しかし、皆さんが心を込めて精一杯してくれていました。「底なしの親切をもっておたすけにかかれ」と教えられ自分はしてきたと思っていましたが、果たしてどうか。小さな駆け引きをしてはいなかったかとベット上で反省ばかりでした。情けない。でも、気付かせてもらったのでもう一度底なしの親切を心に刻み、実行させていただきます。

入院して二週間が経ちました。ふと二週間前に出直したと思えば赤ちゃんからのスタートで、オムツをつけて下の世話をしてもらい、今はずっと寝たまま。これから座れるようになり、立ち、歩けるようになります。（そうか、これから元に戻るのではなく、一からスタートし直す。そのチャンスをいただいたのだ）と悟りました。だから焦らずに一日一日の成長を楽しみに生きていこう。そう思って入院生活を送りました。

今月のおやのことばの中で、身上の障りの時は悠っくり気を持ちて、と教えていただいています。現実に教会に帰って来たらするべきことが一杯ですが、ゆっくりと進んでいきたいと思いますので、お力添えをお願いします。

おびやゆるしの御守護

松浦ひろみ

五月二十日、二男(松浦諒太朗、優花)のところに、第一子女の子が産まれました。名前は結彩(ゆあ)です

三月下旬、おびやゆるしをいただきにおぢばに帰ったとき、お腹の子が逆子になっていると聞きました。赤ちゃんが真ん中のあたりにいる為、治るのは難しいと病院で言われたそうです。

とにかくみんなで、本部に参拝に行かせて頂き、その後教祖殿御用場でおさづけをさせて頂き、それからおびやゆるしを頂きに行かせてもらいました。その日は、詰所にみんなで宿泊し、部屋では時間を仕切って、おさづけをさせて頂きました。次の日、諒太朗夫婦は和歌山県で仕事をしている為、帰りました。

それから、四月のお産のため砥部に帰って来ました。その時、おぢばから帰った後、診察に行くと、逆子が治っていたことを聞きました。本当に本当に、神様のお働きとおびやゆるしの御守護を改めて感じる事が出来ました。

親神様、教祖ありがとうございます！

人助けの心

椿　信代

母からLINEがあり、弟がコロナに罹ったとの連絡がきました。高熱や咳、倦怠感などあらゆる症状が出ているとのことで、どうしてものときは近くにいる姉の私に助けてやって欲しいという内容でした。弟の家までは車で40分程度の距離のため行くことは出来ますが発症している本人と会うわけにはいかないし、平日は仕事だしなあ…どうしようかなと思っていたところ、次の日に同居している下の弟も熱が出てきて動けなくなってきたとのことで、水分や食べ物が欲しいとの連絡がきました。

その日は月曜日のお昼過ぎで私は絶賛仕事中でしたが、その連絡を見てすぐに会社を早退することを決め、夫とともに弟たちのところまで食料を届けに行ってきました。その瞬間には、ちょっと大変だなあとか、仕事を休むのはなあ…という気持ちは吹っ飛んでいました。つらそうな人を見て放っておけない気持ちが行動させたのだと思いました。

『人助けの心とはどうしてもこの方に助かってもらいたいんや』という思いだと、よく親会長さんから聞いてました。今回は家族・兄弟だったのでそう思うのは当たり前かもしれません。他人に対しても心から助かって欲しい、元気になって欲しいと思い、行動ができるような人になれるよう常に心がけたいと思う1日でした。

編集後記

5月の葛城会長就任奉告祭に帰らさせて頂く前日に、おぢばに帰らさせて頂いた時、今治を出発した時から良いお天気で、自分で言うのも変ですが、遠出する時は、結構良い天気に恵まれます。（笑）

おぢばに到着し、三殿を参拝させて頂いてる途中、教祖殿に入ったときに、ふと前を見ると結婚式をしていました。今まで見たこともなかったので、参拝するのも忘れて少し見入ってしまいました。厳かな雰囲気の中で粛々と結婚式が進められていました。

久しぶりのおぢばがえりだったので、とても嬉しい気持ちになりました。

やっぱりおぢばはいいなあと思った今日このごろでした。（編集者K）